



# エコ・ファーストの約束（更新書）

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

令和3年10月1日

環境大臣 小泉 進次郎 殿

大成建設株式会社  
代表取締役社長

相川善郎

大成建設は「人がいきいきとする環境を創造する」というグループ理念のもと、自然との調和の中で、建設事業を中核とした企業活動を通じて良質な社会資本の形成に取り組んでいます。当社は環境技術の向上と適用により、バリューチェーン全体でステークホルダーと共に、2050年環境目標に掲げる「持続可能な環境配慮型社会の実現」にグループ一体となって取り組んでまいります。

## 1. 脱炭素社会の実現に向けて、CO<sub>2</sub>排出量削減への取り組みを積極的に推進します。 ＜2050年までに事業活動によるCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロを目指します。＞

- ・ オフィスおよび作業所におけるCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロに向けて電力使用においては省エネ活動、クレジットの活用、再生可能エネルギーの導入、化石燃料については施工の効率化、作業所で使用する重機・車両のハイブリッド化、電動化や代替燃料の導入、省燃費運転等をサプライチェーンと共に取り組みます。
- ・ 作業所における施工段階の総CO<sub>2</sub>排出量を2030年までに62%(1990年度比)削減します。
- ・ ZEBの研究、実証、普及など、建物の省エネ技術の開発や、お客様へのCO<sub>2</sub>削減効果などの提案を積極的に行い、お引渡しする当社設計における建物運用段階のCO<sub>2</sub>予測排出量を2030年までに55%(1990年度比)削減します。
- ・ TCFDに賛同しており、提言に基づく当社の気候変動のリスクや機会等の積極的な開示をしていきます。
- ・ SBTとして認定された2030年目標の達成に向けてCO<sub>2</sub>削減に取り組めます。

## 2. 循環型社会の実現に向けて、資源の有効利用への取り組みを積極的に推進します。 ＜2050年までに建設副産物の最終処分率0%を目指します。＞

- ・ 「大成建設グリーン調達ガイドライン」を活用し、サプライヤーと協働した設計段階からの建物や構造物のライフサイクルに配慮した資機材の採用や調達、お客様の建物の長寿命化技術の提供に努めます。
- ・ 作業所において、廃プラスチックを含む特定建設資材廃棄物の分別の徹底と適正なりサイクル、中間処理を実施することで、最終処分率を2030年までに3.0%以下となるよう目指します。
- ・ 作業所仮設事務所や本社・支店などオフィスにおいて使用する物品についても3R(使用量削減、再利用、リサイクル)に努めます。

## 3. 自然共生社会の実現に向けて、自然環境に対する影響低減への取り組みを積極的に推進します。 ＜2050年までに自然資本への影響の最小化を目指します。＞

- ・ 自然資本の価値を適正に評価し、設計・施工段階から竣工後の運営・管理支援に至るまで、生物多様性への配慮を行うとともに、豊かな環境づくりのためのソリューションをお客様に提供します。
- ・ 当社独自の生物多様性評価ツールである「いきものコンシェルジュ®」「森コンシェルジュ®」「水辺コンシェルジュ®」などを活用して、生物多様性に配慮した提案を毎年35件以上となるよう取り組み、生物多様性条約や生物多様性国家戦略における目標に貢献していきます。

## 4. 安全が確保される社会の実現に向けて、環境リスク低減への取り組みを積極的に推進します。 ＜2050年までに環境リスクがゼロとなる価値の提供を目指します。＞

- ・ 建設副産物、汚染土壌、工事排水、有害・化学物質の適正管理と環境関連法令を順守することで、環境リスクを最小化して環境事故の未然防止に努め、環境事故ゼロを達成します。
- ・ 土壌汚染などに関する規制に対応できる新技術の開発や取組、周辺環境への負荷を低減する工法を推進します。

大成建設株式会社は、上記の取組の状況を確認し、環境省へ報告すると共に環境報告やホームページに公開します。

環境目標達成のため「環境負荷低減活動（TAISEI Sustainable Action）」を全社で実施します。

\*TAISEI Sustainable Actionとは、2050年環境目標の達成を目指し全社員が参画し、環境負荷低減効果がある技術や取り組みを展開する活動です。